

Niche な前立腺炎の 全容に迫る！

企画にあたって

「前立腺炎」と聞いて、どんな印象をお持ちだろうか。悪性腫瘍や尿路結石など、手術を中心とする疾患を診る頻度の高い泌尿器科医にとっては、「面倒な疾患」という印象が強いのではないか。それは、「前立腺炎」が細菌感染症と、感染症としては説明できない慢性前立腺炎/慢性骨盤痛症候群（chronic prostatitis/chronic pelvic pain syndrome：CP/CPPS）からなっているためであり、後者は症候群という概念的な疾患単位でつかみどころがないためであろう。さらに、CP/CPPSにおける疾患特異的な病態解明や治療の確立が大きく進んではおらず、慢性、難治性の疾患であることが大きな要因と考えられる。本特集を立案するにあたり、これまでの総まとめといっても過言ではない、網羅的かつ新しい知見を盛り込んだ解説を著者の先生方をお願いした。

本特集では、まず基本となる前立腺炎の分類と現状の鑑別方法についておさらいし、主に頻度の高い細菌性前立腺炎と CP/CPPS について解説していただいた。診断や治療法がほぼ確立している細菌性前立腺炎については、耐性菌対策や排尿障害に対するマネジメントが重要な一般細菌による前立腺炎に加え、比較的報告が少ない性感染症としての前立腺炎について項目を新たに設けた。外来診療において最も悩ましい疾患の1つである CP/CPPS については、診断や治療のほかに症状ドメインの分類や診療ガイドラインが存在する欧米の動向、さらに現在行われている基礎研究や最新の臨床データに関する項目を設け、解説していただくよう依頼した。

本特集を一読していただくことで、多くの先人が蓄積してこられた知見をおさらいし、さらに最新の知見も得ることができる。また、すぐに実臨床に活かすことができる、現時点での教科書になりうると信じている。そして、多くの泌尿器科医の「前立腺炎」、特に CP/CPPS に対する苦手意識が緩和され、さらに診療に深みが生まれることで、困っている多くの患者が恩恵を受けられることを期待したい。

岡山大学病院

泌尿器科

(現籍 東京女子医科大学病院
泌尿器科 腎臓病総合医療センター)

和田 耕一郎